

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371600640		
法人名	(有)アメニティホーム		
事業所名	アメニティホーム塩釜 2F		
所在地	愛知県名古屋市中天白区元八事3丁目321番地		
自己評価作成日	令和元年11月1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigyo_syoCd=2371600640-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigyo_syoCd=2371600640-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和1年11月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様が生き甲斐と役割を持った生活ができご自身のペースで自由な思考で暮らせるように支援している  
 また、健康維持やコミュニケーション構築に集団体操や家事の分担などにも力を入れている  
 医療機関とは常に連携を取り緊急時すぐ対応できるように安心して生活出来るようにしている  
 地域との交流の機会も多く作り馴染みの関係作りに励んでいる  
 家族様が気軽に意見や要望など出来るように職員とのコミュニケーションが取れており来所しやすい雰囲気作りにも努めている

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、デイサービスと居宅介護支援を併設して運営しており、地域に関する様々なニーズに対応した支援が行われている。利用者の中には、デイサービスから生活場所を移行された方もあり、段階的に生活場所を移行する支援が行われていることで、利用者や家族の安心感にもつながっている。併設のデイサービスで行事が行われる際には、グループホームの利用者も参加する機会をつくっており、入居前からの関係の方との交流の機会にもつながっている。ホームには、身体状態の重い方も生活しており、医師や看護師との連携を深め、職員間で利用者に関する支援内容を検討しながら、一人ひとりに合わせた食事形態の提供や排泄支援等の取り組みにつなげている。利用者の中には、ホームで最期を迎えた方もあり、住み慣れた生活環境で最期まで過ごすことができる支援が行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各フロア入口に理念を掲げ、また生活記録ファイルにも掲載しているので常に職員が確認できるようにしている	事業所名から考えた理念を掲げ、カンファレンス等を通じて、職員間での共有につなげている。職員一人ひとりが利用者の尊重や地域交流の大切さを知ってもらうために、日常的な意識向上にも取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会や敬老会への参加 運動会等の見学 地域の喫茶店へお出掛け 地域の子育てサロンとの交流で訪所して頂いている	地域の方との交流については、併設事業所とも連携して行われているが、ホームからの地域の行事や敬老会等に参加する機会をつくり、交流につなげている。また、地域の子育てサロンとの交流が行われており、相互に訪問する機会がつけられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の方との交流もあり事業所や利用者様の理解を得ている、相談ごと等あれば積極的に乗っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回運営推進会議の終わりに家族様同士、職員との交流の機会を設けて意見交換や相談できる場を作っている	会議の際には、地域の様々な分野の方の参加が得られており、ホームで行われている行事を見もらう機会もつくりながら、ホームの取り組みを知ってもらう働きかけが行われている。また、家族の参加も得られており、意見交換等が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議や施設のイベント等に声をかけさせていただいたり、町内の行事等に参加し交流を持つようになっている	市の講習会や研修会等には、併設のデイサービスや居宅介護支援も含めた事業所全体で参加する機会がつけられており、ホームの運営への反映につなげている。また、地域包括支援センターとも情報交換や行事等を通じた交流が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に取り組んでおり定期的な研修と委員会を開催し身体拘束について学んでいる	身体拘束を行わない支援に取り組んでおり、身体状態が重い方についても職員間で支援内容を検討し、身体拘束にない生活の実現につなげている。専門の員会による検討会議や定期的な職員研修も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修(社内・社外)を行ない虐待防止に努めている 管理者は常に職員とコミュニケーションを図り意見や相談をうけたり、利用者様の状態を見ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加し勉強し資料等職員で共有できるようにしている 必要に応じて管理者が対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所される前にしっかりと家族様に説明や意見・質問等に答え納得して頂いた上で契約に至っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常日頃から職員と家族様とのコミュニケーションが取れており意見・要望が言いやすい環境が整っているのものでその場で意見や相談に乗ることが多い 反映に早く対応できていると思います 意見箱の設置もあります。	ホームの行事には家族の参加も得られており、交流の機会がつくられている。法人代表者が併設事業所に勤務しており、家族からの要望等には管理者と連携して対応する体制がつくられている。また、毎月のホーム便りには利用者毎に報告も添えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のカンファレンスミーティングで、意見や提案の機会を設けている。 常に管理者は職員の近くにおり、すぐにコミュニケーションをとり個別でも相談できる環境も作っている	毎月の職員会議や日常的な情報交換の機会をつくりながら、職員からの意見や提案をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者との面談の他にも、法人代表者による定期的な職員面談が行われており、職員の把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現場の様子を把握し、職員ひとり一人やりがいがある環境を作ってくださっている 一人一人とのコミュニケーションもしっかり取って頂いており評価してくださっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内・社外研修を通じてキャリアアップ出来るように取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修に参加したりしたり、介護ネットなどの集いで意見交換などしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	バックグラウンドアセスメントを活用したり、事前に家族や本人の話を聞いてそれをまとめ職員で共有し安心して生活出来るように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	管理者だけでなく職員全員とコミュニケーションが取れるように、家族様が気軽に相談できる環境を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人のアセスメントとニーズから優先順位を付けて安心材料からの支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ひとりひとりのご利用者様に寄り添いそれぞれの役割や過ごし方を考え共に暮らす気持ちで支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様と職員で協力し合いながら利用者様を支えていく信頼関係を持っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	基本的にこれまで交流があった方の来所は拒まず歓迎し、家族様へも馴染みの環境に添えるように提案もしている	利用者の友人や知人の訪問の他にも、併設のデイサービスにホーム利用者の馴染みの方が利用している際には、職員も支援しながら交流の機会がつけられている。また、家族との外出の機会もつけられており、家族の誕生日等を通じた交流も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	全てに利用者様が丸になることは難しいが趣味が合う、気持が通じ合うなどしっかり観察しそれぞれが穏やかに生活できる環境作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの暮らしぶりを参考に、またご本人との会話の中での言葉を拾い上手く聞きだしたり 困難な方は表情で読み取ったりご家族の意見も参考にしている	職員間で利用者を担当し、利用者に関する意向等を把握する取り組みが行われている。また、専用の用紙に利用者に関する職員の気付き等を記載する工夫が行われており、利用者の意向等を職員間で共有し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	バックグラウンドアセスメントや家族様のお話から情報等共有し過去の暮らしぶりを把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活記録や申し送りの中で変化等あればすぐに連絡しあい状況の把握また情報共有をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のケアカンファレンスでの話し合いと事前にご家族様からの要望をお聞きした事を照らし合わせて計画に反映している また細かいことは各ユニットごとでミニカンファレンスも行なっている	介護計画は6か月で見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。担当職員も参加した毎月のモニタリングを実施し、変化等の把握が行われている。また、日常的にも職員に介護計画の内容を周知する取り組みも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様一人ひとりの生活記録とは別で特記事項等あれば差し込みで情報をわかりやすく共有したり、連絡帳にてわかりやすく記している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じて出来る限りの対応するように職員ひとり一人の意見を聞きながら取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員の方と交流したり、近所の飲食店やスーパーなど民間の地域資源などとの関わりを持つ事で安全と安心を確保している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診と緊急時の対応により管理者のみではなく職員全員が医師とのコミュニケーションを図っている また、必要に応じて専門の医師などの協力も得ている	協力医による定期的及び随時の医療面での連携が行われており、利用者に健康状態に合わせた支援が行われている。また、ホームに看護師が勤務しており、利用者に関する医療面での支援や協力医との利用者に関する情報交換が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師とも職員個々や家族も気軽に相談等できるような環境であるので連携がしっかりとれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院は基本同じであるのと主治医が敏速に対応して頂けるので安心はしている 入院中の訪院もして担当医や看護師との関係作りにも努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	定期的に研修も行ない終末期の対応など学んでいる 医師から判断が出た時は速やかに家族へお話しとカンファレンスの開催を行ない 今後のケアなど方針を決め計画作成し協力して支援している	身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、家族との話し合いを深めながら、利用者の中には、ホームで最期を迎えた方もいる。また、職員間でのカンファレンス等を通じた検討や看護師からの支援も含め、一人ひとりに合わせた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時のマニュアルを作成してどの職員も対応が出来るように努めている 定期的に救命訓練も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練の実施 夜間の火災の想定など訓練を行なっている 地区の災害訓練にも参加している	年2回の避難訓練は併設事業所との合同で開催しており、合わせて夜間想定や通報装置の確認も行われている。地域の災害訓練への参加や運営推進会議を通じた情報交換等、地域の方との連携にも取り組んでいる。また、備蓄品の確保も行われている。	ホームには、身体状態の重い方も生活している状況でもあるため、併設事業所を含めた、職員間での継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様一人ひとりの人格や背景を把握し人生の大先輩であるとの意識を常に持ちプライドなど傷付けないように注意している	基本理念には、利用者を尊重した対応を行うことも掲げられており、職員による利用者への対応や注意喚起等の機会にもつなげている。また、利用者への対応や接遇に関する研修の機会もつくり、職員の振り返りにつなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	基本的に利用者様のペースを見守り支援している いくつかの提案の中から自己決定しやすい様にも配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の生活スタイルやご本人の要望を優先に考えケアプランに反映している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者様一人ひとりの好みの服装や格好を職員は把握している 容姿が乱れていれはすぐに整容している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものを聞いたり、野菜の下処理後片付けの手伝いをしてもらっている 食べやすい形状や量もきちんと把握しみんなが同じものを食べられるよう、楽しく食事ができるように環境も作っている	メニューは職員間で利用者の好みや嗜好等にも合わせながら、利用者もできることに参加する機会がつけられている。行事等に合わせた食事作りや身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。また、職員も利用者と一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	刻み食やミキサー食など嚥下状態などに合わせて食事の形状など変えたり摂取しやすいように器なども工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	まずはご自身で歯磨きなどをしてもらい最後の仕上げを職員がチェックしている 歯科医師、衛生士による口腔ケアの実施もしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりのリズムやパターンを表にして共有し、トイレ誘導など失禁など失敗のない様に努めたりトイレの習慣を身に付けれる様に支援している	利用者の身体状態等にも合わせて排泄記録を残し、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。トイレでの排泄を基本として支援を行い、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。また、看護師との排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操や歩行運動により腸の働きを促したり必要に応じ便秘薬は使用している 排便チェック表も作成し排便状況も把握し早い対処ができるように努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	お好みのお湯の温度や浴槽に浸かる時間など利用者様に伺いながら支援している 基本的には週2だが、失禁時や希望時はその都度対応している	利用者の状況等にも合わせて週2回の入浴が行われているが、月曜から日曜まで入浴の準備していることで、柔軟な対応も行われている。身体状態に合わせた職員2名での支援も行われている。また、季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	基本的に利用者様が休みたい時に休んでもらっている 部屋の温度調整などは聞きながら行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誰がどんな薬を飲んでいるかなど職員が見てわかる一覧を作成している 薬剤師とも薬の相談も行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	バックグラウンドアセスメントやセンター方式の一部を使用しまとめ、利用者様の支援に役立てている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常では気候が良い時はお散歩に出かけている ご家族様がお連れされることもある散歩を毎日の日課にされている方もいるので個々に支援できるように努めている	ホームでは、季節や天候にも合わせながら、ホーム近隣にある公園やお寺等に出かけたり、買い物に出かける機会がつけられている。季節に合わせた花見等の外出の取り組みや利用者の希望等に合わせた外出支援が行われている。	利用者の身体状態等、ホームの様々な状況もあり、利用者の外出の機会が限られた範囲となっている。職員間で検討を深めながら、利用者の外出に機会が増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設の買物と一緒に出かけたり、お散歩の途中でお店に寄って買物や喫茶店に行く事もある ご自身で使う日用品(消耗品)を買いに行く事もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を持っている利用者様が好きな時に電話を掛けてもらっている お手紙が届いたらお返事を書かれたり職員から利用者様へ暑中見舞いなども書かれたりもする		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせ装飾したり、レクリエーションで作成したものを飾ったり、写真を貼っている	ホーム内は広めの空間が確保されており、採光に優れていることと合わせて、利用者が日中の時間をゆったりと過ごすことができる生活環境がとられている。また、季節に合わせた飾りや利用者の作品等の掲示も行い、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル席では気の合う利用者様と食事をしたりソファでのんびりしたい時は自由に使っていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に馴染みの家具など自由に持ってきていただいている ご本人様のお好きな装飾や空間作りを家族様やご本人と一緒にしている	居室については、利用者や家族の意向にも合わせた馴染みの物等の持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の居室の方もあり、一人ひとりに合わせている。また、利用者の身体状態等にも合わせて、ベッド以外での生活を継続している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	役割や生きがいを感じていただけるように空間作りや雰囲気作りに心掛けている		